

館長あいさつ

昨年度に引き続き、新型コロナウイルスオミクロン株感染症のまん延により、今年度も資料館での行事や運営は変更を余儀なくされることとなりました。大田原市でも、8月23日から9月30日までの約1か月半の間施設が休館対応となり、10月から平常の運営となりました。このような中、両館では職員一同が十分な予防対策のもと、予定されていた業務を行いました。ここにその概要を紹介させていただきます。（上野修一）

「ふうどき」ではなく、「ふどき」です！



なす風土記の丘資料館は、昭和41(1966)年に文化庁が発表した「風土記の丘設置構想」に基づき、遺跡と資料の一体的な保存や活用を図ることを目的として設置された資料館の一つです。全国には17の風土記の丘構想による資料館が存在します。本館は平成4(1992)年に栃木県立なす風土記の丘資料館・湯津上館として開館し、平成24(2012)年4月に大田原市に移管されました。

以降、地域の古代文化にかかわる遺跡及び考古資料を中心に、市民への教育普及・学術及び文化の発展に寄与することを目的として、大田原市教育委員会が運営しています。近年、江戸時代以降初となる学術発掘や、県事業での侍塚古墳発掘などで注目が高まり、「なす風土記」の名前も多くの方に見ていただけるようになりました。『風土記』は一般には地方の歴史や文物を記した地誌のことを指しますが、奈良時代に地方の文化風土や地勢などを国ごとに記録編さんし、天皇に献上させた地誌のことを指します。当館もその名前のとおり、地域に根差した資料館として活動しています。読み方は「ふどき」ですので、よろしくお願いいたします。（鈴木志野）

今年はこんなことがありました

なす風土記の丘湯津上資料館では…

今年度は、企画から2年半となる秋季特別展『青木義脩の考古学』を開催することとなりました。念願のシンポジウムも実施することができました。ボランティア受入講座である「なす風土記サロン」では、新型コロナウイルス感染症予防のため密を避けるように人数制限を設け、屋外の遺跡見学などのプログラムを盛り込みました。

9月から開始された県事業の上侍塚発掘調査の影響もあり、新聞やテレビ番組などでも湯津上地区の史跡が多く取り上げられるようになりました。

昨年に引き続き実施している学術発掘調査では、石田地区・佐良土地区の2か所を発掘調査しました。その結果、東山道駅路の側溝の可能性のある溝跡や、奈良・平安時代の官衙に関連する区画溝跡などが確認されました。（詳しくは5ページへ）（鈴木志野）

歴史民俗資料館では…

今年度も新型コロナウイルスが猛威を振るい、臨時休館や事業の中止がありました。しかし、そのような中でも、昨年度中止となった「農業体験フェスタ」や大金家文書を長く研究されてきた小貫隆久先生を招いての講演会を開催することができました。「農業体験フェスタ」は天気は左右されましたが、自然と上手に付き合うことも農業をするうえで大切なことが実感できたと思います。そして、小貫先生の講演会では、徳川光圀の命による調査後、那須国造碑がどのように守られてきたのかをお話いただきました。

また、資料を寄贈していただいたり民俗調査や旧家の蔵を見に出向いたり、地域の皆様からたくさん情報を提供していただき、多くのことを教えてもらった1年でした。（宮澤友美）

農業体験フェスタ～サツマイモづくり～

昨年度より、下侍塚古墳傍の三角畑で実施することになったサツマイモづくりですが、4月の畑づくり・5月の植えつけは、新型コロナウイルス感染防止のため中止となってしまいました。今年度は初めて、全3回を通して開催することができました。

4月の畑づくり・5月の植えつけ・10月の収穫祭と、講師に蜂巢耕平氏を迎え、市史編さん専門員の木村康夫氏の協力のもと実施することができました。今年は3回とも天気に悩まされました。畑づくりは雨の予報だったため1週間延期し、植えつけは小雨の中速やかに植え、収穫祭は畑からもどると雨が降り出し…。しかし、自然と上手に付き合うことも農業をするうえで大切なことを、身をもって理解していただけたのではないのでしょうか。

(宮澤友美)



苗の植付けの様子



収穫の様子

お知らせ

ボランティア活動はいかがですか？

昨年度より、湯津上地区を中心に活動する史跡解説ボランティアの受入のための講座が始まりました。一般的にボランティアとは、「無償の奉仕者」という印象が強いと思いますが、実際は「協力者」という存在ではないでしょうか。

平成31年4月1日に施行された改正文化財保護法では、地域の文化財の総合的な保存活用、埋蔵文化財の価値の地域社会への還元が必要であるとして、「文化財の確実な継承に向けたこれからの時代にふさわしい保存と活用の在り方について」という項目が明確化されました。地域の文化財をまちづくりに活かしつつ、地域社会総がかりでその継承に取り組んでいくことが重要であるとしています。また、令和2年9月の改正では、「祭り・食文化の継承・振興」が新しく追加されました。無形文化財・無形民俗文化財として、生活様式の変化などによって食などの多様な習俗・「わざ」の継承や特色が失われつつあることを受けて、継承の危ぶまれる地域の祭りや郷土料理を幅広く保護するねらいです。このように、地域の方々の生活に紐づく知恵や知識が貴重な情報であり、そのご協力とご理解があつてこそ、できる調査研究・展示会があるのです。

次年度も今年度に引き続き、ボランティア活動を希望する方、地域の歴史に興味関心のある方を対象にした講座「なす風土記サロン」も実施する予定です。ぜひ、ご参加ください。

(鈴木志野)



令和3年度ボランティア講座
(たくさんの方に参加いただきました！)

大田原市なす風土記の丘湯津上資料館

国指定史跡・侍塚古墳、国宝・那須国造碑を中心に、日本で初めての発掘調査と、大田原市内で発見された資料を展示している考古資料館です。

〒324-0403 栃木県大田原市湯津上192

TEL 0287(98)3322 FAX 0287(98)3323

E-mail fudokiyuzukami@city.ohatawara.tochigi.jp

URL <http://www.city.ohatawara.tochigi.jp/docs/2013082772084/>



大田原市歴史民俗資料館

昭和30年代、湯津上地区で実際に使用されていた農具や民具を中心とした、大田原市内の民俗芸能を扱う民俗資料館です。

〒324-0403 栃木県大田原市湯津上194

TEL 0287(98)2151

URL <http://www.city.ohatawara.tochigi.jp/docs/2013082772237/>

